

2021年度 学校教育目標

教育方針

1 建学の精神

建学の精神の要約は「**学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ**」である。

すなわち学術の場では学術の研鑽と共にジェントルマンシップ、レディシップを醸成陶冶する。

スポーツの場では健康の増強、心技の錬成と共にスポーツマンシップを体得する。

スポーツマンシップ イズ ジェントルマンシップ。

スポーツマンシップとは 一、ルールを守る 二、ベストを尽くす 三、チームワークをつくる

四、相手に敬意を持つ この四大綱を内容とする。

2 校 訓

梅村学園の学祖である梅村清光は、生まれ故郷である水戸の藩校・弘道館の建学の精神の一つ

「**文武不岐 (ぶんぶふき)**」を受け継ぎ、「**真剣味 (しんけんみ)**」を校訓に掲げた。

「真」は真実、真理の「真」で「知育 (学力)」「剣」は剣道、剣術の「剣」で「体育 (体力・スポーツ)」「味」は人間味の「味」で「徳育 (人間力)」を意味する。

3 学校教育目標

「高い志を持ち 心身ともに健康で 自ら学ぶことのできる 情操豊かな中京生を育成する」

4 目指す教育とその実践

(1) 自校教育の推進

梅村学園の一員としての、自覚と誇りを育てるため自校教育を推進する。

そのため、教職員自らが自校教育に精通し、生徒には機会あるたびに学園創立の歴史、創立者の功績、建学の精神と校訓等について解説し、自覚と誇りを胸に高校生活を送らせる。

(2) 高い志を持ち、自ら学ぶ力を育て、個々の個性や適性に応じた進路の実現

「建学の精神」と「校訓」のもと、生徒に対して自らの人生を切り拓いていくために必要なものは何かをつかませ育てていくことが大切である。

そのため、一人一人の教員が教科の専門性に特化した力量を発揮しながら、「何を学ぶのか」「どのように学ぶか」、この学びによって「何が身に付くのか」について明確に示した上で、知識理解の質を高め「主体的・対話的で深い学び」の領域に導くことが必要である。このことを実現させるには、各教科で蓄積した内容からなる、夢のある「グランドデザイン」を組み立てることが重要である。

(3) 7年一貫教育と高大連携

7年一貫教育とは、「附属高校入学」から「中京大学卒業」までの、7年間を視野にいたした教育プログラムである。そのため、高大連携のもと時間の適切な配分、進捗状況に基づく改善などを通して、カリキュラム・マネジメントを確立させる。

(4) グローバル教育の推進

知識・情報・技術をめぐる変化が加速度的になり、情報化やグローバル化といった社会変化が、予測を超えて進展してきている。こうしたことを前提として、本学に必要なグローバル教育を積極的に推進する。このことによって、世界的な視野で物事を関連付けたり組み合わせたりして、より深い理解と物事を捉える視点や考え方を育む。

(5) 心身の健康と規律ある習慣の定着

日常生活を営む上で必要な行動の仕方や、望ましい在り方・生き方を追求する態度を「学級活動」を通じて、学級担任が計画的、発展的に指導する。その方法は学級担任が学級づくりのグランドデザイン（学級経営案）としてまとめる。

また、「生徒会活動」や「部活動」は、教員の広く豊かな視野からなる適切な指導助言の下、多様な個性をまとめ良好な人間関係を形成させることに役立つ。身に付いた行動規範は、学校運営全般において重要な意義を持つことから、教育効果を高め高めていく基盤と位置づける。

(6) 情報化社会に対応した生徒指導の確立

生徒指導は「教育目標」を達成する上で重要な機能を果たし、学習指導と並んで重要な意義を持つ。一個人の行動、選択や判断が学校や組織、所属する個々に対して重大な影響を及ぼす社会構造の中にある。そのため、学校生活のあらゆる場や機会を捉えて、集団や社会の一員として認められることを前提とした生徒指導を確立する。

(7) 組織力の蓄積と継承

各世代が蓄積してきた有効な手段や情報が、組織内で「知の循環」として共有されたり、次世代に「知の継承」として引き継がれたりすることが、安定した組織力を維持することに繋がっていく。一人一人の教職員が、伝えること、共有すること、引き継ぐことに傾注する。

2021 年度重点目標

中京大学附属中京高等学校中期計画 2016-2023 に基づき教育改革を推進する。

校長学校経営方針（私たちの心構え Our Attitude）

- 1 全職員が建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」の具現化に取り組む。
- 2 教育目標の達成と課題解決を図るため、人事においては適材を適所に配置する。
- 3 生徒第一 高い目標を掲げ、勇気と創造力をもって挑戦し、高いレベルの教育を提供する。
- 4 中京大中京を担う、次世代のリーダーを育成する。
- 5 前例にとらわれることなく「中京だからできること」「中京にしかできないこと」の実現を目指し、常に他の私学の一步前に行く。

1 授業改革及び指導力の向上

- (1) 各教科の「グランドデザイン」を作成し教科運営の柱とする。
- (2) 主体的で・対話的で深い学びの視点からの、指導方法を改善する。
- (3) 授業改善アンケートと授業研究日を効果的に活用し、指導理論や応用力を共有しながら授業改善のPDCAサイクルを確立する。
- (4) 「自ら学ぶ」を具現化する探究活動を推進する。
- (5) 各教科においては、新学習指導要領への移行が順調に行われるよう、教育内容及び学習評価の充実を図る。

2 ICT 教育ポリシーの確立

- (1) 各コースに応じた ICT 教育ポリシー確立し運用を開始する。

3 7 年一貫教育の推進

- (1) 7 年一貫教育の基本となる「グランドデザイン」を作成し、その基本理念を基に生徒にとって高校入学から大学卒業後までを見通すことができるようにする。
- (2) 附属高校推薦決定後も「学ぶ意欲を維持」できる学習プログラムを構築する。

4 グローバル教育の推進

- (1) アフターコロナに対応した、交流プログラムにより相互の交流を推進する。
- (2) 多角的にグローバル教育の推進を図り長期留学制度を充実、発展させる。

5 国際コースの充実と発展

- (1) 豊かな語学力、コミュニケーション能力や異文化体験を有する生徒を育てる。
- (2) 連携校との交流を促進させるネットワークの構築を進める。
- (3) 海外留学につながる啓発活動や交流を通して、留学機運の醸成を図る。

6 スポーツクラスの充実と発展

- (1) スポーツクラスの充実、発展を全教職員で後押しする。
- (2) シラバスを精選し教育内容をさらに充実、発展させる。

7 進路指導の充実

- (1) 知的好奇心を持たせ、未知のものに積極的にチャレンジする生徒を育てる。
- (2) 生徒たちの行く先を照らす、積極的な進路指導プログラムを展開する。
- (3) 東大、難関大プロジェクト推進のため、校長指名による特任チームを編成する。

8 入試広報活動の強化充実

- (1) 全教職員が入試広報部員との自覚と責任を持ち、広報活動に積極的に関わる。
- (2) 私学展、オープンスクール、入試説明会、上級学校訪問等に未経験者を積極的に参画させる。
- (3) 学校の顔として広報活動を展開し、他校を上回る信頼と信用を得る。

9 生徒会活動の充実

- (1) 学級活動を基盤とした異年齢交流を充実、発展させる。
- (2) ボランティア活動など社会参画にも目を向けさせる。

10 生徒指導の充実

- (1) SNS 等情報管理教育に着手し、教職員と共に啓発活動を充実させる。
- (2) ケース検討会議を定期的で開催し、生徒理解と担任を支援する体制を整える。

11 学校評価制度の充実

- (1) 学校評価制度を活用し、本校教育活動の充実と説明責任を果たす。

12 次世代リーダーの育成

- (1) 次世代リーダープロジェクトで、同世代の積極的交流を充実させる。
- (2) 将来構想を見据え、幅広い視野や責任ある立場に目を向けさせる。

13 その他

「一日一善 一日一手」「1人の100歩より100人の1歩」